

ホタルのニュースレタ

日本ホタルの会 2006/3 第36号

薬用にされたホタル

日本ホタルの会理事 小西正泰

現代人類の寿命が古い時代よりも著しく延びたのは、医学と薬の進歩に大きく負っているといわれる。この薬は、かつては動・植・鉱物など自然物が材料として利用されてきた。薬材として植物が主体であったため、中国や日本では本草(ほんぞう)と称していた。

ところで、ホタルは暗所で発光することが注目されたためか、古代の中国本草書で薬用として記され、その影響を受けて日本でもホタルは薬材として認められていた。私の手もとには薬用昆虫に関する内外の文献が多数あるが、ここでは東洋(中国、朝鮮半島、日本)におけるホタルの「適応症」などについて紹介することにしたい(用法は省略)。

■ 中 国

まず中国最古の本草書といわれる『神農本草経』(2世紀後半に成立)では、虫類29種を上・中・下に分け、「下品」(治療薬、有毒)として「螢火」(ホタル)が目をもるくするとして記されている。これは暗いところで光ること

図1 『本草綱目』より

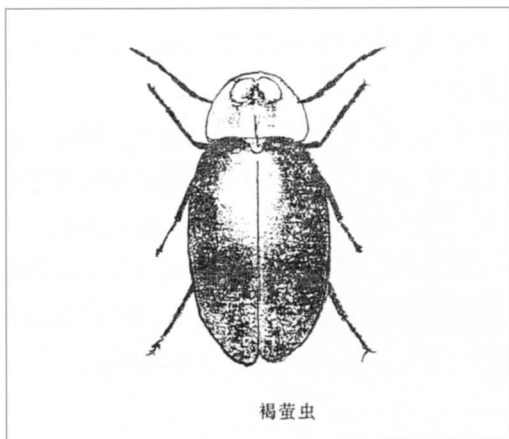


からの連想であろう。それ以来、中国ではホタルが本草書や薬虫書に連綿と命脈を保ってきている。

代表的な中国本草書である李時珍の『本草綱目』52巻(1590)は、自説のほかに先行文献の諸説もとり入れて構成されている。本書の「螢火」(図1)には次のような効能などが記される。——味は辛くて毒はない。ホタルの主な効能は、邪をよく退け、目を明るくする、青盲(青の色盲)を治す、小児のやけど、熱気、腹の虫の毒、精神に通ずるなど。薬には「飛ぶ螢」(有翅の成虫)を用いる。螢

火丸、冠将丸、武威丸などと称する丸薬を調剤して、諸病の治療や戦傷除け、盗賊除けなどに使用する。そのほか、7月7日の夜にとったホタル14匹を髪に燃りつけると黒くなること、ホタル14匹を大きな鯉の胆のうの中に入れ、百日間陰干ししたものを粉末にして少量ずつ目につけると、目を明るくするという。

図2 蔣三俊（1999）より



その後の多くの中国書でホタルの項を拾ってみると、適応症は上記と大同小異である。ホタルの種類は*Luciola vitticollis*(褐螢虫、図2) および *L. chinensis* (中華黄螢) で、ほとんどが前者である。

■ 朝鮮半島

朝鮮半島については、岡本半次郎・村松茂の「食用及薬用昆虫二関スル調査」(1922)によると、ホタルの適応症は、てんかん、眼病、中毒、梅毒、目を明るくし盲を治す、虫毒、青盲などである。朝鮮半島では『本草綱目』など中国書の影響はあまりなかったようである。

■ 日本

日本には、上述の『本草綱目』が1604年以前に伝来している。その後、和刻本が刊行されたりして流布し、わが国の本草学や博物学に多大の影響を与えた。

貝原益軒の『大和本草』16巻(1709)は、『本草綱目』を金科玉条としないで国産品(「和品」)を重視し、仮名(片かな)交り文で書かれた異色の本草書で、オリジナリティーがある。虫類58種を「水虫」と「陸虫」に大別し、「螢火」は陸虫に分類されている。『本草綱目』で螢火丸の薬効があるというのに対し、益軒は「イフ(ブ)カシ」と疑問を表明している。

はるかくだって大正期になると、昆虫学者の三宅恒方が「食用及薬用昆虫二関スル調査」(1919)を全国規模で実施して発表した。ホタルの薬用については、ゲンジボタルとヘイケボタルの名称では傷薬、腫物の吸出し、「ほたる」(ゲンジ、ヘイケとその他)では傷、腫物、歯痛、咳、百日咳、指の痛、解熱、霍乱^{かくらん}(日射病)、おこり、腸痛、下痢、血止め、禿頭病(はげ)などを県別に挙げている。この報告書が日本における薬用昆虫についての基準になっている。

次いで適応症が最も多いのは、梅村甚太郎の『昆虫本草』(1943)である。腫物(吸出し)、ひょうそ(指先の化膿)、痔、血止め、利尿、寝小便、腎臓病、産後の下血(ホタルの卵の黒焼粉を服用)、疔(ちょう。顔などの腫物)、強心剤、解熱、腰痛、霍乱、禿頭病(粉末の外用)など。

かつて滋賀県守山町(現在は市)はゲンジボタルの多産地として知られ、南喜市郎の『ホタルの研究』(1966)によると、明治～

大正期にはホタルを大量に捕って売る「ホタル問屋」が何軒もあったという。ホタルの死虫も大量に出たので、それを干して薬種商に売ったそうである。また、同書によると、ゲンジボタルには独特の異臭があり、生体を口に含むととても苦くて長く口中に残るという。

神田左京は『ホタル』(1935)のなかで、ホタルを入れて竹を煮ると、竹がやわらかくなるという伝聞を紹介している。

鈴木棠三の『日本俗信辞典一動・植物編』(1982)の民間療法には、ホタルの光は、できもの・腫物・指病によい。とげぬき・傷には、つぶして米と練り用いるなどがある。また、薬とは対極に位置する俗信に、ホタルをつぶすとできものが出る、(ホタルを)つまんだ手で眼を擦ると眼がつぶれる、(ホタルを)捕ると病気になる、などとあるのはおもしろい。

以上のように、ホタルは多くの病気のクス

リになるが、その背景にはホタルは暗いところで光を放つ、そこからホタルには不可思議な能力があるというイメージが生まれる。この光ることから目が明るくみえるようになる、ハゲ頭が治るなどの俗信が生まれたのであろうが、この最後のものはホタルの粉末を頭に塗ると、ますます光り輝いて「逆ボタル」になるのではなかろうか。

ホタルのクスリ以外の医学的効用の一つに、ホタルの蛍光物質を利用して食品などに混入している微生物の存在を検知することがある。

また、ホタルの蛍光物質とガン細胞との「粘着」によりその細胞の活動情報を測定する(蔣三俊、1999)などの効用もある。

終わりに、現世のホタルをとりまく状況は保護・保全の一色であり、それ以外の目的での大量利用は「想定外」と思われる。

.....

図・書・紹・介

「市民が調べる名古屋の自然」

―相生山緑地ヒメボタル幼虫調査の報告―

この報告書は、昨年(2005)の12月に名古屋市内に今も残る相生山という保全緑地で、名古屋市民の団体が、八木 剛先生の指導のもとに実施した、ヒメボタルの幼虫調査結果の報告書です。(A4版100ページ)

調査方法、調査内容、調査組織の作り方ともども今までみられなかったユニークな取り組みで、大変貴重な資料です。全国各地でホタルの保護・調査に取り組んでいる皆さん方、是非読んでみてください。

内容は下記の通りです。

※ 口絵 カラー写真3ページ

- 1 講演 「幼虫調査の結果報告」 兵庫県立人と自然の博物館 学芸員 八木 剛
- 2 対談 名古屋市ヒメボタル成虫調査との比較
- 3 討論会 今後の課題
- 4 幼虫調査の関連文書
- 5 参加者の声
- 6 巻末資料
- 7 編集後記

注文方法は、下記のところへ電話またはメールで申し込めます。

費用は郵送料を含めて1冊1000円です。

〒464-0827 名古屋市千種区田代本通6-12-2B

藤森 憲臣

「名古屋の市民が調べる自然の会」

電話 090-9473-4984

E-mail NORIOMI-FUJIMORI@env.go.jp

■ 2004 年度会計報告

2004 年度会計報告は、2005 年 12 月 17 日の理事会において承認を受け、2006 年 2 月 18 日の会計監査において、収支決算の確認がなされましたので、次のとおり報告します。

なお、会計監査は、日本ホテルの会鈴木浩文氏にお願いしました。

2005年度日本ホテルの会収支計算書 (2005年4月1日から2006年3月31日まで)

科 目	予算額	決算額	差 異
収入の部			
1. 会費収入	1,050,000	803,800	246,200
会費収入	1,050,000	803,800	246,200
2. 寄付金	0	1,610	-1,610
寄付金	0	1,610	-1,610
3. 参加費	4,000	5,800	-1,800
談話会参加費	4,000	5,800	-1,800
4. その他収入	30,000	17,100	12,900
その他収入	30,000	17,100	12,900
5. 受取利息収入	20	9	11
受取利息	20	9	11
当期収入合計 (A)	1,084,020	828,319	255,701
前期繰越収支差額	1,715,070	1,715,070	0
収入合計 (B)	2,799,090	2,543,389	255,701
支出の部			
1. 通信費	265,000	244,743	20,257
2. 印刷費	260,000	143,989	116,011
3. 会場費	5,000	5,000	0
4. 需用費	60,000	34,122	25,878
5. 旅費	40,000	34,000	6,000
6. 家賃	630,000	630,000	0
当期支出合計 (C)	1,260,000	1,091,854	168,146
当期収支差額 (A-C)	-175,980	-263,535	87,555
次期繰越収支差額 (B-C)	1,539,090	1,451,535	87,555

需用費には、消耗品、食料費、手数料が含まれます。

事務局からのお知らせ

理事会報告

2005年12月17日に理事会を開催し、2006年度役員体制、ニュースレター第36号の内容検討、2004年度会計報告、第9回談話会などを協議しました。

役員が交代します

2006年度は役員の交代年度に当たりますので、4月から新体制で活動を進めます。新役員は3月の理事会で決定し、4月以降早期に会員の皆様にお知らせします。

■読者投稿の募集

日本ホタルの会では、ニュースレターへの、皆様の投稿をお待ちしています。ホタル、環境保全などに関する調査、研究報告、各地域での活動報告をはじめ、読者の皆様の体験、ホタルとの出会いなどを紹介する「私とホタル」のコーナーに掲載する記事を募集しています。

ご希望の方は、題名、氏名等と簡単な内容を記載して事務局あてお送り下さい。

ホタルのニュースレター（第36号） 2006年3月31日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 矢島 稔

156-0041 東京都世田谷区大原 2-17-6

ステーションプラザ代田橋 410

(株)オーグラム内 日本ホタルの会事務局

TEL & FAX : 03-3328-7379

e-mail : omata@nihon-hotaru.com

URL : <http://www.nihon-hotaru.com>

印刷 文明堂印刷株式会社

239-0821 神奈川県横須賀市東浦賀町 1-5

TEL : 046-841-0074 FAX : 046-841-0071

